

「人類の出現から文明の発生」の評価

東京都世田谷区立弦巻中学校 安齋正則

1 評価計画

① 単元毎の評価計画

評価の在り方が、これまでの相対評価による評定から目標に準拠した評定（絶対評価）に変わる。

これにもない、年間の学習指導計画を立てる際に、従来にもまして、さらにしっかりした評価計画も立てていく必要が出てきた。目標に準拠した評価をすることを前提にすると、従来からの学期という期限を単位とした時間的に機械的な区切

りで評価することでは対応できなくなる。今後は、内容的にひとまとまりとなる単元ごとに評価をすることが中心となってくる。

それでは、帝国書院『中学生の歴史(最新版)』の「第2章 古代国家と東アジア 1節 人類の出現から文明の発生まで」を例にして、評価計画の仕方を示そう。

② 単元全体の観点別評価規準の設定

「人類の出現から文明の発生まで」の単元の学習指導計画を立てる際に、4観点ごとにどのよう

年間指導計画および評価計画〔第2章 古代国家と東アジア…第1節 人類の出現から文明発生〕

次	学習内容	学習活動	観点別評価の順番	学習活動における評価基準	
				A	B
1	東アジアにあらわれた人類	・人類の発生と最初のころの生活のようすを発掘品などからとらえる。 ・農耕・牧畜開始以前と以後の人類の生活の変化をとらえる。	関1 資1 知1	・人類がきびしい環境の中で獲得した知恵や工夫を追求しようとしている。 ・遺跡から発掘された人骨や遺物から人類の特徴を的確にとらえている。 ・発掘品などから最初のころの人類がどのような生活をしていたのかとらえている。 ・人類の発生から農業のはじまりまでの変化を理解し、知識を確実に身につけている。	・人類がきびしい環境の中で獲得した知恵や工夫に関心を示している。 ・猿と比較して人類の特徴をとらえている。 ・野尻湖遺跡の写真から当時の人たちが生活していたころのようすをとらえている。 ・人類の発生から農業のはじまりまでの変化を理解している。
5	歴史探偵になってみよう 発見された人骨のなぞ	・発見された縄文時代の人骨のなぞをいくつかの情報を利用して解き明かす。	関5 思3 資4	・意欲的に課題に取り組み、発展的に追求しようとしている。 ・与えられた情報を多面的・多角的に検討して結論を出している。 ・与えられた情報を正しく読み取っている。	・与えられた課題の取り組み組んでいる。 ・与えられた情報のうち一つのことを基に結論を出している。 ・与えられた情報を他の情報とも関連つけて読み取っている。

